

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、




お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お子様のご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願いいたします。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。



■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、下表のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	～しないでくださいという「禁止」を示します。
	「必ず実行」してくださいという強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

 警告	この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
 注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

警告

分解禁止



この機器の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、または故障などの原因になります。異常を感じた場合など、機器の点検修理は必ずお買い上げの楽器店または別紙のご相談窓口にご依頼ください。

水に注意



浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。また、本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。

感電や火災、または故障の原因になります。

異常に気づいたら



使用中に音が出なくなったり異常なおいや煙が出た場合は、すぐに電源アダプターのプラグをコンセントから抜く。(電池を使用している場合は、電池を本体から抜く。)

感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの楽器店または別紙のご相談窓口にご依頼ください。

電源 / 電源アダプター



電源アダプターは必ず交流 100V に接続する。エアコンの電源など交流 200V のものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



電源アダプターは、指定のものを使用する。(異なった電源アダプターを使用すると) 故障、発火などの原因になります。



濡れた手で電源アダプターのプラグを抜き差ししない。

感電のおそれがあります。お手入れをする際は、必ず電源アダプターのプラグをコンセントから抜いてください。



電源アダプターのプラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに乾拭きする。感電やショートのおそれがあります。

取り扱い



可動部を動かす際、指や手などをはさまないように、充分注意する。けがをするおそれがあります。

注意


電源 / 電源アダプター




電源アダプターコードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源アダプターコードに重いものをのせない。電源アダプターコードが破損し、感電や火災の原因になります。




タコ足配線をしない。コンセント部が異常発熱して発火したりすることがあります。


 電源アダプターコードやプラグがいたんだときは使用しない。また、長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。感電、ショート、発火などの原因になります。


 電源アダプターのプラグを抜くときは、電源アダプターコードを持たずに、必ず電源アダプターのプラグを持って引き抜く。
電源アダプターコードが破損して、感電や火災が発生するおそれがあります。


電池


 指定以外の電池を使用しない。
火災、発熱、液漏れの原因になります。


 使い切りタイプの電池は、充電しない。
充電すると液漏れや破裂の原因になります。


 乾電池が液漏れした場合は、漏れた液に触れない。万一、液が目や口に入ったり皮膚に付いたりした場合は、すぐに水で洗い流し、医師に相談する。失明や化学やけどなどのおそれがあります。


 電池は一度に全部を交換する。電池は新しいものと古いものを一緒に使用しない。また、種類の異なったもの（アルカリとマンガン、メーカーの異なるもの、メーカーは同じでも商品の異なるものなど）を一緒に使用しない。
発熱、発火、液漏れの原因になります。


 電池は乳幼児の手の届く所に保管しない。
口に入れたりすると危険です。

 電池を分解しない。
電池の中のものに触れたり目に入ったりすると、化学やけどや失明のおそれがあります。

 電池を火の中に入れない。
破裂するおそれがあります。


 電池を金属製のネックレスやヘアピン、コイン、鍵などと一緒に持ち運んだり、保管しない。
電池がショートし、発熱、破裂、火災のおそれがあります。


 電池はすべて＋／－の極性通りに正しく入れる。
正しく入れていない場合、発熱、発火、液漏れの原因になります。


 長時間使用しない場合や電池を使い切った場合は、電池を本体から抜いておく。
電池が消耗し、電池から液漏れが発生し、本体を損傷するおそれがあります。


 使用済みの乾電池は、各自治体で決められたルールに従って廃棄しましょう。

接続


 他の機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切った上で行う。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小 (0) にする。
感電または機器の損傷のおそれがあります。


 分解 / 組立の手順は、必ず本取扱説明書の「組立手順」の通り行う。
誤った手順で組み立てると、機能が十分に働かなかったり、雑音発生の原因になったりします。


 取付ネジ 1 ～ 3 は確実に締める。
ゆるんだ状態で使いになると、演奏時にガタついたり、雑音が発生したりする原因となります。


 エンドピンストッパーは確実に締めて固定する。
ゆるんでいると、演奏中に楽器が落下する場合があります。


運搬 / 設置

 直射日光のあたる場所（日中の車内など）やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、またほこりや振動の多いところで使用しない。
本体のパネルが変形したり内部の部品が故障したりする原因になります。


 テレビやラジオ、スピーカーなど他の電気製品の近くで使用しない。
デジタル回路を使用しているため、テレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。


 不安定な場所に立てない。
機器が転倒して故障したり、お客様がけがをしたりする原因になります。


 楽器の移動の際は、ネックおよびベース本体ボディを持つ。
側板ユニットのみを持って楽器を持ち上げると、側板ユニット故障の原因となります。


 本体を移動するときは、必ず電源アダプターコードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行う。
コードをいためたり、お客様が転倒したりするおそれがあります。


取り扱い

 本体を手入れするときは、ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは絶対に使用しない。
また、本体上にビニール製品やプラスチック製品などを置かない。
本体が変色 / 変質する原因になります。お手入れは、柔らかい布で乾拭きしてください。

 本体の上に乗ったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。
本体が破損する原因になります。

 大きな音で長時間ヘッドフォン（イヤホン）を使用しない。
聴覚障害の原因になります。

 弦の先は鋭利になっています。指に刺したりしないように気を付けてください。

 弦の交換や調整の際、顔を楽器に近づけすぎない。
不意に弦が切れて目を傷つけるなど、思わぬけがの原因となることがあります。

不適切な使用や改造により故障した場合の保証は致しかねます。

長時間使用しないときは、必ず電源を切りましょう。

ごあいさつ

このたびはヤマハサイレントベース™をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。サイレントベース™の機能を充分に活用するために、この取扱説明書をよくお読みになってからご使用ください。なお、ご一読いただいた後も、不明な点が生じた場合に備えて、保証書と共に大切に保管していただきますようお願い申し上げます。

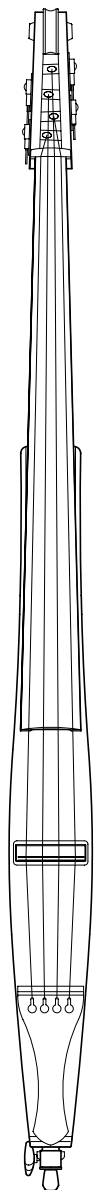
目 次

安全上のご注意	2
本体/付属品	5
本体各部の名称	6
演奏準備	8
■ 調弦について	8
■ 側板ユニットの取り付け	10
■ エンドピンについて	11
■ 別売ソフトケースへの収納	11
■ 弦の交換について	12
電源の準備	14
■ 乾電池を使うときは	14
■ 家庭用コンセントから電源を取るときは	14
使用方法（コントロール部）	15
外部機器との接続	16
本体仕様	18

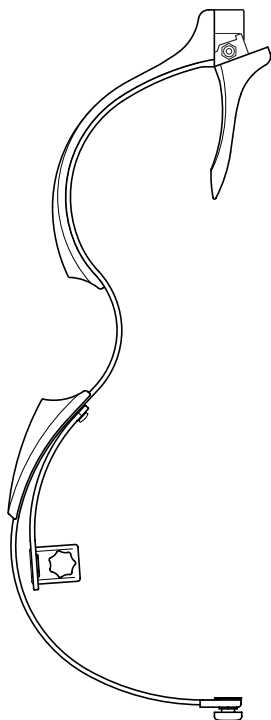
本体/付属品

パッケージを開いたら、本体および付属品を確認してください。

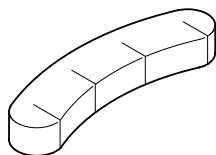
● 本体 × 1



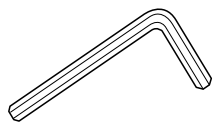
● 側板ユニット × 1



● ミュート × 1



● 六角レンチ × 1



※ 電源アダプターをご使用の場合は、
別売のヤマハ電源アダプター (18
ページ参照) をお買い求めください。
※ 乾電池でご使用になる場合は、
6F22 (S-006P) 9V 乾電池が必要
です。

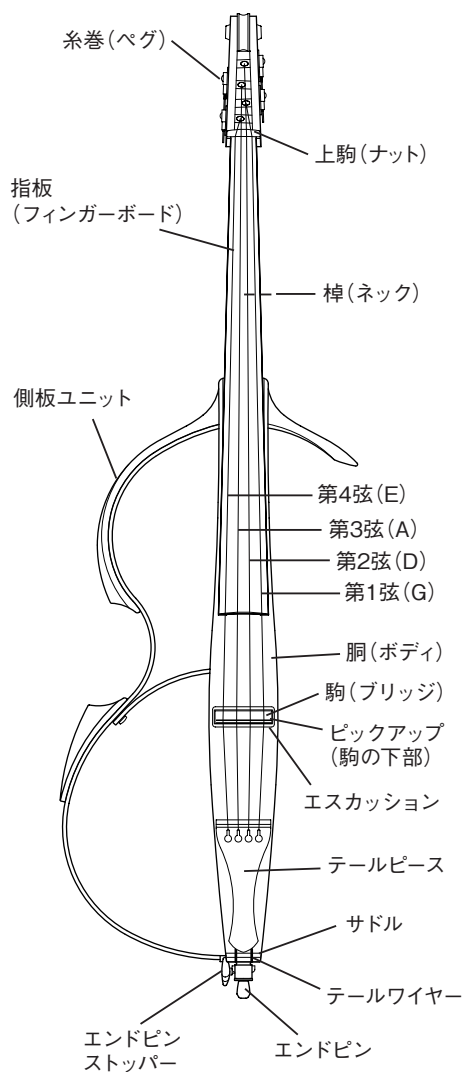
オプション商品の紹介

- ・ 電源アダプター
- ・ サイレントベース™用スタンド(BST1)
- ・ サイレントベース™用ひざ当て(BKS1)
- ・ サイレントベース™用ソフトケース(BSC1)

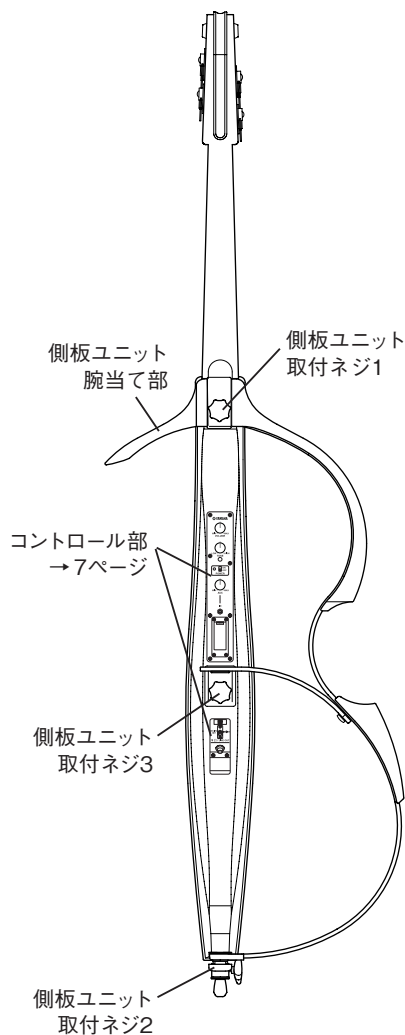
上記オプション商品をお求めの場合は、販売店にご相談ください。

本体各部の名称

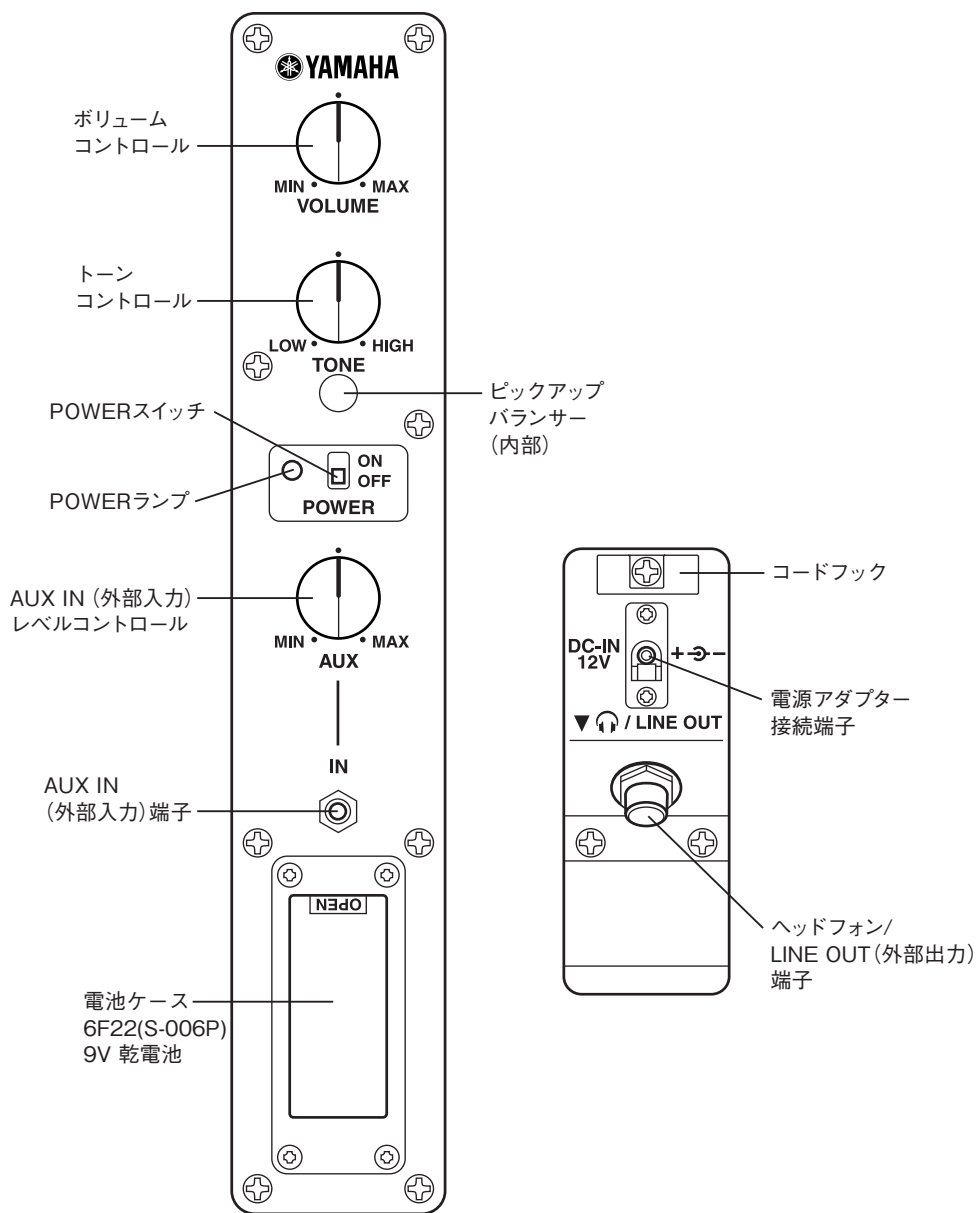
●フロント部



●リア部



●コントロール部



演奏準備

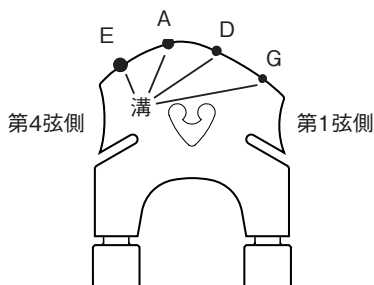
■ 調弦について

出荷時、サイレントベース™の弦は通常の調弦状態よりゆるめてあります。

駒の高さは標準的な高さに調整してあります。

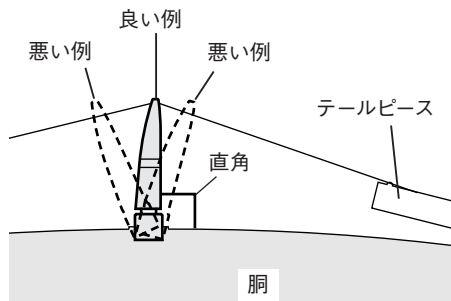
駒の位置は輸送中にずれる場合もありますので、正しい位置に調整した上で、調弦してください。

- 駒は上部の山が低い方が第1弦(G)側、高い方が第4弦(E)側です。横から見て大きくカーブしている面が、指板側(演奏時に上側)になります。【図1】

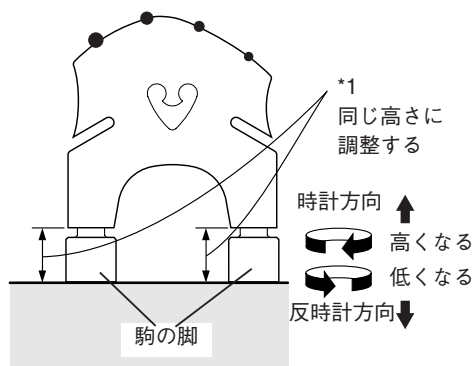


【図1: テールピース側から見た図】

- 駒は、テールピース側の面が、胴に対して垂直になるのが正しい位置です。【図2】
- サイレントベース™の駒は、高さを調整することができます。円柱状の脚を時計方向に回すと高くなり、反時計方向に回すと低くなります。【図3】



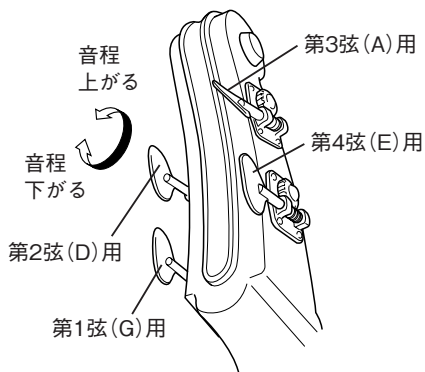
【図2: 駒は垂直に立てる】



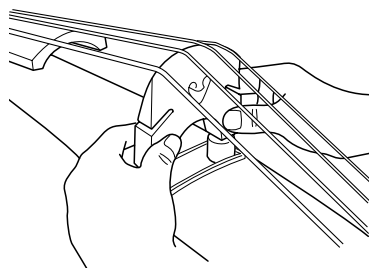
【図3: 駒高さの調整】

- 駒の高さ調整は、必ず弦をゆるめて、脚を回すのに大きな力が必要ない状態にしてから行ってください。弦の張力が通常のままで、無理に脚を回しますと、駒やピックアップなどの故障の原因となります。
- 駒は、両方の脚の高さが必ず同じになるように調整してください。両方の脚の高さが違う状態で弦の張力を上げると、駒の底面がピックアップに密着せず、音質劣化や雑音、故障などの原因となります。(図3. *1)

- 調弦は、第1弦がG音、第2弦がD音、第3弦がA音、第4弦がE音です。
ピアノや音叉、チューナーなどの音に合わせて、糸巻を回してチューニングしてください。

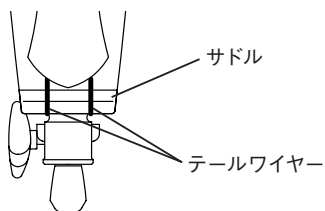


- 調弦後、駒のテールピース側の面が、胴に対して垂直になっていることを確認してください。傾いている場合は弦を少しゆるめてから、駒を両手でそっと起こしてください。



注意！

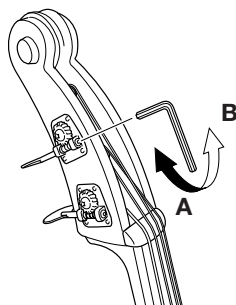
テールワイヤーが正しくサドルの上にのるように調整してください。



● 糸巻のトルク調整

付属の六角レンチを使って、糸巻の回転トルクを調整することができます。

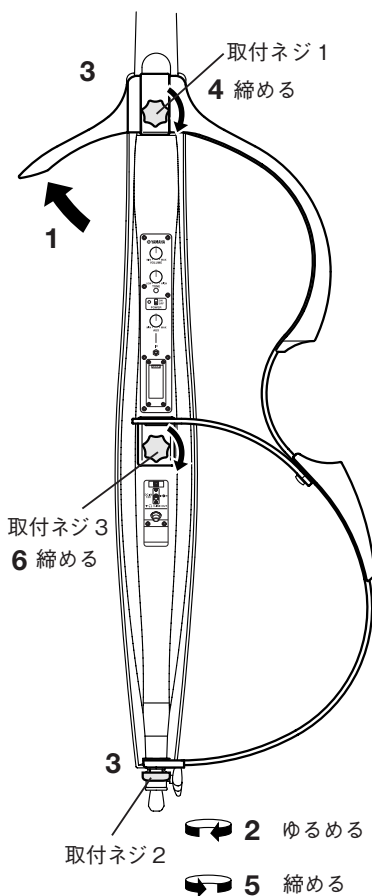
- ・ トルクが弱く、軽い接触などでつまみが回ってしまう場合
→ 調整ネジを右(時計方向: **A**)に回す。
- ・ トルクが強く、チューニングがスムーズに行えない場合
→ 調整ネジを左(反時計方向: **B**)に回す。



■ 側板ユニットの取り付け

出荷時、側板ユニットはサイレントベース™本体から外してあります。
以下の手順で側板ユニットを本体に正しくセットしてからお使いください。

1. 側板ユニットの上部腕当て部を、ストッパーが当たるところまで開きます。
2. サイレントベース™本体最下部にある「取付ネジ 2」を十分にゆるめておきます。
3. 側板ユニットの下部切り欠き部が、サイレントベース™本体の「取付ネジ 2」にはまるように差し込みながら、側板ユニット上部のくぼみをベース本体上部の肩に乗せるようにゆっくりと押し込みます。
4. 側板ユニット上部の「取付ネジ 1」を時計方向に回してネジを締め付け、ベース本体に固定します。
5. ベース本体最下部の「取付ネジ 2」を時計方向（下から見て）に回してネジを締め付け、ベース本体に固定します。
6. 側板ユニット中央の可動部の「取付ネジ 3」を、ベース本体中央にある取付ネジプレートに時計方向に回して締め付け、ベース本体に固定します。



注意！

- 可動部を動かす際、指や手などを
はさまないよう、充分注意してく
ださい。

これで、側板ユニットの取り付けは完了です。
取り外す場合は、上記と逆の手順で行ってください。



注意！

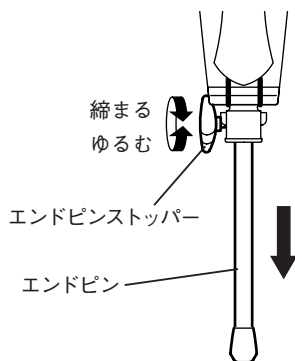
- 取付ネジ 1 ～ 3 は確実に締めてください。ゆるんだ状態でお使いになると、演奏時にガタついたり、雑音が発生したりする原因となります。
- 楽器の移動の際は、ネックおよびベース本体ボディを持ってください。側板ユニットのみを持って楽器を持ち上げると、側板ユニット故障の原因となります。

■ エンドピンについて

エンドピンストッパーをゆるめ、エンドピンを引き出し、演奏しやすい高さの位置でエンドピンストッパーをしっかりと締めて固定します。



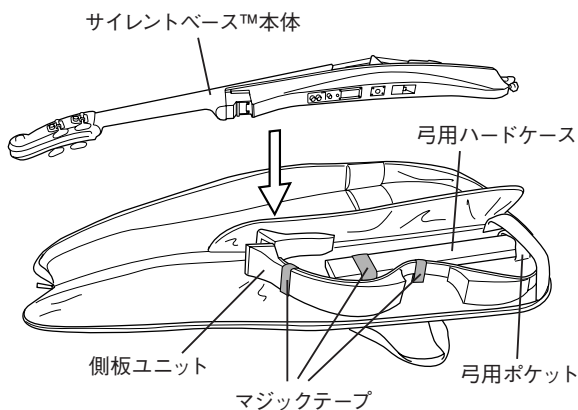
- 演奏中に楽器が落下しないよう、エンドピンストッパーは確実に締めて固定してください。



■ 別売ソフトケースへの収納

別売のサイレントベース™用ソフトケースに収納する場合は、サイレントベース™から側板ユニットを外し、下図のようにして分けて入れてください。

- 側板ユニットは、ケース内のマジックテープ (2ヶ所) でしっかりと固定してください。
- 弓を収納する際は、必ず弓用のハードケースに入れた上で、ソフトケースの弓用ポケットに入れ、マジックテープ (1ヶ所) でしっかりと固定してください。
- ソフトケースに入れた状態で横に置く場合は、本体側を下面 (側板ユニット側を上面) にしてください。



ソフトケースは、駒など各部品の損傷を保障するものではありません。

ソフトケースは、あくまで携帯しての移動用、および楽器をホコリなどから守るための収納ケースです。駒面を下にして置いたり、物を乗せる、ぶつけるなど、衝撃を与えることは避けてください。

■ 弦の交換について

弦は古くなると、音質が劣化し、調弦しても音程が合わなくなります。

弦が古くなったと感じたら、早めに新しい弦に交換しましょう。

弦は、弦長1,054mm(41.5インチ)に適合する、市販のコントラバス用弦をお買い求めください。



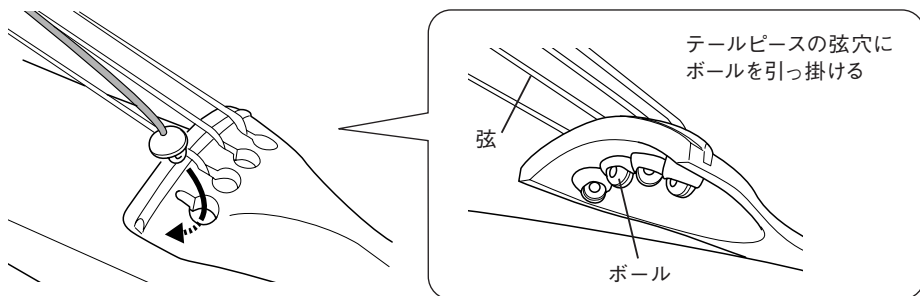
注意！

- 弦の先は鋭利になっています。指に刺したりしないように気を付けてください。
- 弦の交換や調整の際、顔を楽器に近づけすぎないようにしてください。不意に弦が切れて目を傷つけるなど、思わぬけがの原因となることがあります。

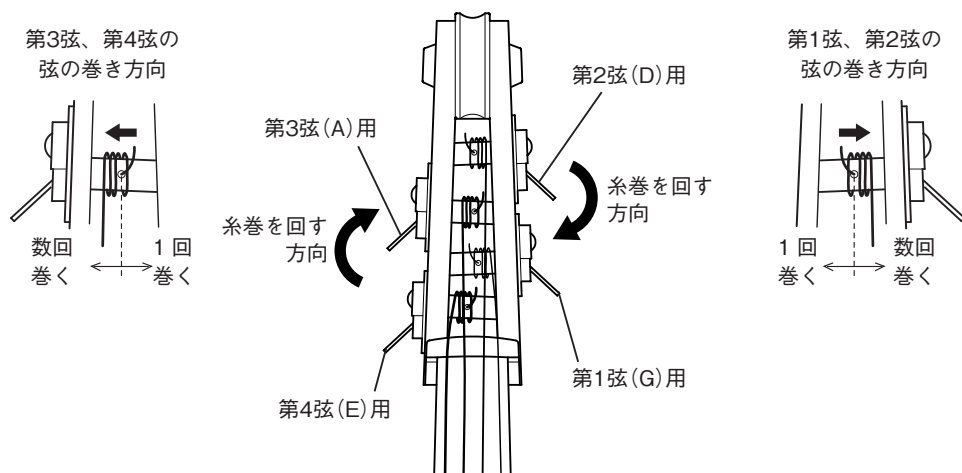
弦の巻き方

1. 弦の端のボールをテールピースの弦穴に引っ掛けます。この時、弦穴の溝にボールを確実に収めてください。

* ボールエンドが弦穴よりも大きい場合は、テールピース裏側から弦を通してください。

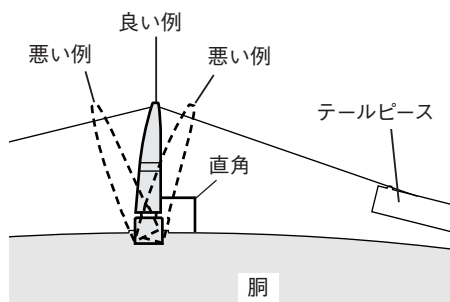


2. 弦を糸巻きの穴に通したら、糸巻きを回し、下図のように穴の片側に1回巻いてから穴のもう一方の側に巻いていきます。1回巻く側は、第1弦(G)、第2弦(D)は向かって左側、第3弦(A)、第4弦(E)は向かって右側です。



この時、駒が弦に引きずられて指板の方向に倒れないように注意してください。また、それぞれの弦が駒の溝に収まるようにセットしてください。

* 駒はテールピース側の面が、胴に対して垂直になるように立ててください。



3. ピアノや音叉、チューナーなどの音に合わせて、糸巻きを回してチューニングします。

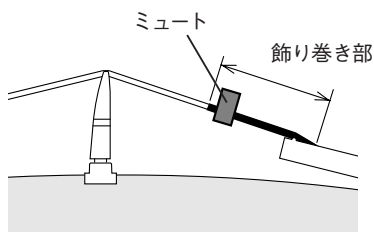
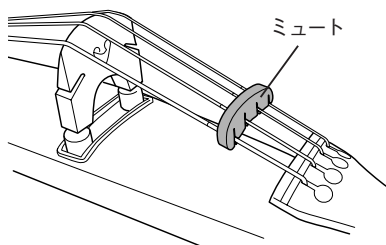
* “■ 調弦について” の注意事項をご覧ください。

- 楽器を長時間使用しない時は、弦をゆるめて保管してください。
- 駒は常に本体に対して垂直に立った状態であることを確認した上でお使いください。傾いた状態で使用すると、駒の寿命を縮めたり音質劣化の原因となります。

■ ミュートについて

ヤマハサイレントベース™は、楽器の構造上、駒とテールピース間の弦振動をピックアップが拾い、余音として残る場合があります。その音が気になる場合は、付属のミュートを下図のように弦の飾り巻き(色の付いた糸が巻いてある部分)上部付近に取り付けてください。

* 駒とテールピース間の1/2付近の位置にミュートを取り付けると、ミュート効果が減少してしまいます。ご注意ください。



音楽を楽しむエチケット

これは日本電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。

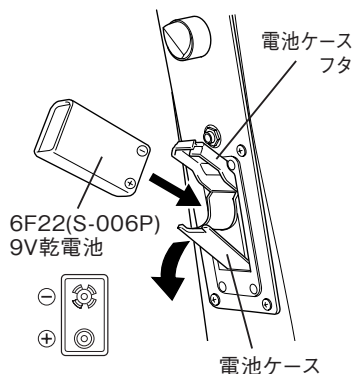
楽しい音楽も時と場所によってはたいへん気になるものです。隣近所への配慮を十分にいたしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬ所で迷惑をかけてしまうことがあります。適度な音量を心がけ、窓を閉めたりヘッドフォンをご使用になるのもひとつの方法です。ヘッドフォンをご使用になる場合には、耳をあまり刺激しないよう適度な音量でお楽しみください。

電源の準備

サイレントベース™は、電源として乾電池と家庭用コンセントの両方を使うことができます。電源の準備をする前に、本体リア部の POWER スイッチを OFF にしてください。

乾電池を使うときは

1. 本体裏面にある電池ケースの、“OPEN”と書いてあるツメを手前に引いて電池ケースを引き出し、フタを開けます。
2. 乾電池 (6F22 (S-006P) 9V乾電池) をケースに入れます。イラストを参考に、向きと極性 (+/-) を間違えないように入れてください。
3. フタを閉め、電池ケースを完全に押し込みます。



電池が少なくなるとランプが暗くなり、音が歪んだりノイズが発生したりします。このような時は以下のことに注意して乾電池を交換してください。



注意！

- 電池の形状（電池端子および外形形状等）は、電池メーカーにより少しずつ異なります。電池ケースと異なる形状の電池を使用した場合、電池ケースへの挿入が困難となり、本体を破損するなどのおそれがあります。また、挿入できても電池端子との接触不良により、動作しなかったり発火するなどのおそれがあります。
- 乾電池は+/-の極性表示どおりに正しく入れてください。正しく入れていない場合、発火するおそれがあります。
- 長期間使用しない場合は、乾電池を本体から抜いておいてください。乾電池が消耗し、液漏れにより本体を損傷するおそれがあります。

家庭用コンセントから電源を取るときは

別売のヤマハ電源アダプター（18ページ参照）をお買い求めください。

1. 電源アダプターのDCプラグを、サイレントベース™のリア部のDC IN 12V 端子に、確実に差し込んでください。
2. 電源アダプターのACプラグを家庭用(AC100V)コンセントに差し込みます。




注意！

- 乾電池が入っている状態で電源アダプターを接続すると、電源は自動的にアダプター側から供給されるようになります。乾電池の液漏れ防止の為、電源アダプターでご利用になる場合は、乾電池を本体から抜いておくことをお勧めします。
- 電源アダプターをご使用になる場合は、必ず指定のものをご使用ください。他の電源アダプターの使用は、故障・発火などの原因になります。このような場合は、保証期間内でも保証いたしかねる場合がございますので、充分にご注意ください。

使用方法（コントロール部）

1. リア部のPOWERスイッチを“ON”の位置にします。
サイレントベース™の電源が入り、ランプが点灯します。

2. リア部の  /LINE OUT 端子と、ベースアンプやパワードスピーカーなどの入力端子とを、標準フォーンプラグのケーブルで接続します。また、この端子にヘッドフォンを接続すれば、外部に大きな音を漏らさないようにしてお楽しみいただくことができます。



注意！

- 接続は、ベースアンプ・パワードスピーカーなどの出力ボリュームを絞るか電源をOFFにした状態で行ってください。
- ヘッドフォンを耳に当てた状態では、プラグの抜き差しをしないでください。

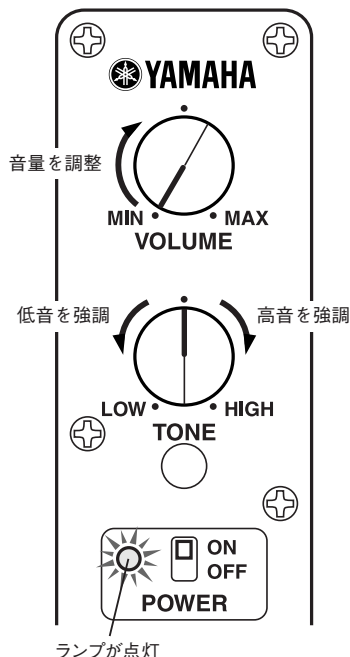
3. 演奏してVOLUMEノブを回し、適度な音量になるように調整します。



注意！

- 大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しないでください。聴覚障害の原因になります。
- 強く弾いた際に音が歪む場合は、VOLUMEノブを少し左に戻してください。

4. TONEノブを回すと、音質を調整することができます。
右(HIGH側)に回すと高音が強調され、左(LOW側)に回すと低音が強調されます。



● ピックアップの音量バランス調整

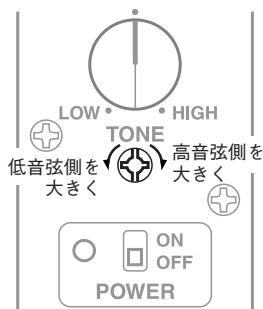
サイレントベース™のピックアップ部には、低音弦側と高音弦側に1つつつセンサーが埋め込まれています。弦の種類や奏法の違いにより、低音弦と高音弦の音量バランスを調整したい場合は、以下の手順で行ってください。

1. 本体リア部TONEノブ下にあるゴム製のカバーを外します。
* このカバーは、なくさないでください。
2. 非導電性ドライバー(プラスチックまたは樹脂製の、電気を通さないドライバー)を使って、穴の内部にある баланサーを回して、バランスを調整してください。
右(時計方向)に回すと高音弦側の音量が大きくなり、左(反時計方向)に回すと低音弦側の音量が大きくなります。
* バランサーは回しすぎないでください。

3. 調整がすんだら、ゴム製のカバーでフタをして完了です。

参考

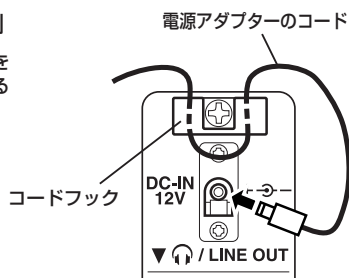
ピチカートを多用する奏法の場合は低音弦側を強調し、弓弾きが主の場合は中間のバランスに設定するのが一般的です。



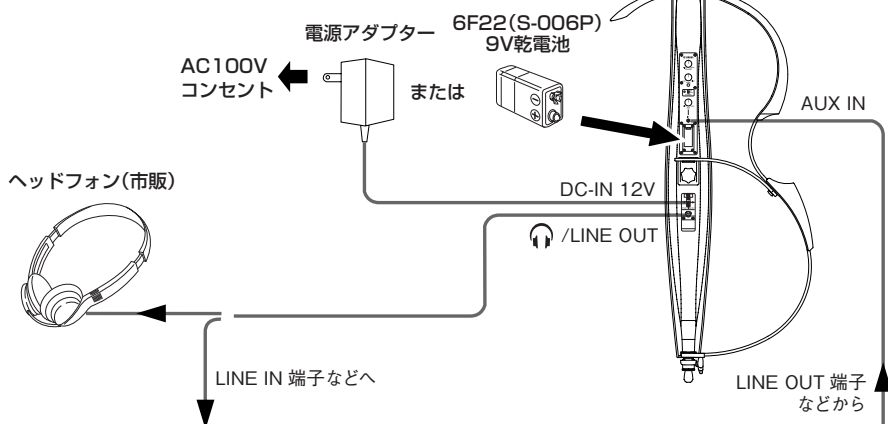
外部機器との接続

● コードフック使用例

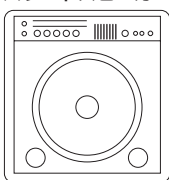
電源アダプターのコードをコードフックに引っ掛ける(コードの抜け防止)



サイレントベース™

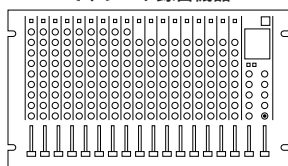


ベースアンプ /
パワースピーカー

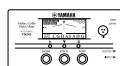


* 50W以上推奨

ミキサーや録音機器



電子チューナー



CD プレイヤー

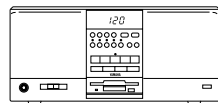


カラオケ伴奏
(CD)再生

カセットレコーダー
(演奏の再生)



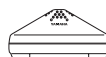
MDP10
(ミュージックデータプレイヤー)



伴奏データ
(フロッピーディスク)再生



電子メトロノーム






外部機器と接続する際は、接続端子の形状を確認し、必ず端子の規格に合ったプラグのケーブルを用い、確実に接続してください。

■ 入力端子 (AUX IN 端子)


- リア部のAUX IN端子は、外部機器からのステレオ音声信号を入力する端子です。市販のオーディオケーブルで、CDプレーヤーやテープレコーダーなどのオーディオ機器の出力端子と接続すれば、外部機器の演奏をバックに練習することができます。また、楽器練習に便利な多彩な機能を装備した、ヤマハミュージックデータプレイヤー MDP10を接続することもできます。
- AUX IN端子から入力される音声信号のボリュームは、AUX INレベルコントロールノブで調整します。
- AUX INレベルコントロールノブで調整された信号に対しても、出力のボリュームコントロール (VOLUME) は作用し、音量を調整することができます。

■ 出力端子 (LINE OUT 端子)



- リア部の  /LINE OUT端子は、サイレントベース™の音声信号を出力する端子です。ヘッドフォンの代わりに、市販のステレオ(またはモノラル)標準フォーンプラグケーブルで、外部のベースアンプ、パワードスピーカー、ミキシングコンソールなどの入力端子と接続すれば、サイレントベース™の演奏音を外部機器で鳴らしたり、録音することができます。電子チューナーのINPUT端子と接続すれば、電子楽器のように出力信号を使ってチューニングすることができます。
-  /LINE OUT端子はステレオ仕様になっていますが、サイレントベース™自体の出力はモノラルです。AUX IN端子のステレオ入力信号のみが、 /LINE OUT端子からステレオ出力されます。



注意！

- サイレントベース™を外部機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切った状態で接続してください。また、外部機器の音量を最小にしてから接続してください。大音量で聴覚障害を起こしたり、機器を損傷するおそれがあります。
- 電源が入った状態で接続コードが抜けると、機器が損傷するおそれがあります。耳に伝わる衝撃も大きいので注意してください。
- コードを踏まないように注意してください。コードの断線や、接続の外れによる機器の損傷、耳への衝撃などのおそれがあります。
- サイレントベース™の出力端子から送る音声信号を、直接、または外部機器を経由してサイレントベース™の入力端子に、絶対に戻さないでください。発振を起こし、内部機器の損傷の原因になります。
-  /LINE OUT 端子にパワードスピーカーを接続した際、パワードスピーカーの能力によっては低音が歪む場合があります。パワーに余裕のある 50W 以上のモデルをお使いになることをお奨めします。

■ 本体仕様

棹	メープル
胴	スプラース+マホガニー
指板	ローズウッド
駒	メープル(高さ調整可能)
側板ユニット	ブナ+アルミフレーム
糸巻	ウォームギア方式
テールピース	エボニー
弦	コントラバス用弦(ボールエンドタイプ)
センサー	新開発ピックアップ(2センサータイプ)
電気	<ul style="list-style-type: none"> ● AUX IN (レベル調整付) ●  (ヘッドフォン)/LINE OUT 共用出力端子 ● ボリューム ● トーンコントロール
電源	<ul style="list-style-type: none"> ● POWERスイッチ (OFF/ON) ● 電池 : 6F22(S-006P)/6LR61: 9V乾電池×1個* *充電式乾電池は使用不可 ● 電源アダプター (別売) : Yamaha PA3C (日本でご使用の場合)、 PA130(海外でご使用の場合)、DC12V/700 mA +-
消費電力	2.5W (PA3C 使用時)、1.0W (PA130, PA130A 使用時)、1.1W (PA130B 使用時)
電池寿命(通常連続使用時間)	マンガン乾電池: 12時間 アルカリ乾電池: 24 時間
弦長	1,054mm (41.5インチ)
寸法	1,735 (L) × 525 (W) × 435 (H) mm (側板ユニット取付、エンドピン最短状態)
質量	約10kg

※ 製品の規格および仕様は、改良の際、予告なく変更する場合があります。

ヤマハ株式会社

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1